



未来の図書館 研究所

NEWS LETTER

No.2

2020.5.15



Contents

- LoFR ウェビナーのご案内
- 2020年の主催イベント予定
- 新型コロナウイルス影響下の図書館
- 今後の動向レポート予告
- 研究所 TOPICS
- 編集後記



新企画 未来の図書館 研究所ウェビナー (LoFR Webinar) を開催します!



図書館の未来を拓くスキル

～ヒト・モノ・コトをむすぶ場づくり(全3回)

おおた つよし

講師 太田 剛氏(図書館と地域をむすぶ協議会チーフディレクター)

新型コロナウイルスの緊急事態宣言で、全国の多くの図書館が閉館しながら、様々なサービスの提供を模索しています。その中で、日常的に埋没していた多くの課題が浮き彫りになってきているのではないのでしょうか。そのことは図書館に限らず、日常生活や働き方から、社会インフラまで、様々な領域で既存の“やり方”が疑問視されています。新型コロナ禍が収束後、世界中で大胆なパラダイムチェンジが加速化するでしょう。その時に、公共図書館はどのような視点を持ち、図書館員に必要なスキルとして何を磨くべきなのか？ 講師が長年研鑽してきた編集工学の考え方や、これまで関わってきた図書館づくりの経験から得た知見から、これからの図書館の向かうべき方向と、図書館員に必要なスキルをともに考えます。

第1回:6月22日(月) 14:00~16:00 テーマ「図書館の本来と将来を考える～図書館づくりの実践から」

第2回:6月29日(月) 14:00~16:00 テーマ「ヒト・モノ・コトをむすぶ場づくりの実践」

第3回:7月6日(月) 14:00~16:00 テーマ「これからの図書館と図書館員のスキルを考える」

対象 図書館勤務経験者(内容は主に公共図書館向けです) **定員** 20名(先着順・事前申込制)

参加料 5,000円(税込) ※全3回分。基本的に3回ともすべてご参加ください。欠席の場合、返金はできません。

参加方法 Web会議システム(WebexまたはZoomの予定)を使用します。

問合せ先 詳細・お申込みは、未来の図書館 研究所 Web サイトをご覧ください。

2020年の主催イベント予定

2020年も主催イベント(第4回ワークショップ「図書館員の未来準備」,第5回シンポジウム)の開催を計画しています。上記のようなオンライン形式となるかもしれませんが、皆様の健康と安全を第一に考え、可能な限り対策を講じ、実現を目指します。9月以降、年度内開催予定です。詳細が決定いたしましたら、当研究所 Web サイトにてご案内いたします。

この記事は、動向レポート増刊号として4月30日（図書館記念日）に発行したものの概要版です。全文は、当研究所 Web サイトに掲載されていますので、ぜひご覧ください。それぞれの図書館の取組の情報源へのリンクも豊富です。http://www.miraitosyokan.jp/future_lib/trend_report/covid-19.pdf

1. はじめに

蔓延している新型コロナウイルス（COVID-19）の影響はすさまじく、世界の多くの図書館が臨時休館やサービスの縮小を余儀なくされている。このようななかでも、各地の公共図書館が地域・コミュニティの人びとに対し、情報サービスやさまざまなプログラムの提供など、多様な取組を実践している。特に、COVID-19の拡大に伴い発生したような「インフォデミック（infodemic）」（わずかな事実、恐怖や憶測に基づいたうわさなどが情報技術によって流布される状況）に対抗する、信頼できる情報源の必要性が高まっており、まさに図書館は「不確実性への対応」を支援しなければならないところにある。

本稿では、国内及び国外（特に感染者の多い米国、ヨーロッパを主とする）の公共図書館が、COVID19の影響でサービスの提供を制限されるなかで、どのようにサービスを提供しているかを調査し、いわば速報版として、2020年4月末時点での取組についてとりまとめた。

中国ではすでに各地で図書館が再開しており、イタリアも学校の再開に先駆けて5月中旬から図書館を再開することを発表した。しかし、COVID-19収束後の世の中も、再開後の図書館も、これまでとは同じではいられないであろう。現在の困難な状況を乗り越えた先の、これからの公共図書館のあり方を考える一つの手がかりとしたい。

2. サービス縮小の状況

各国とも、不特定多数の人びとが集まるプログラム（イベント）の延期・中止という対応が最初にとられ、その後、開館時間の短縮、閲覧席や集会室などの一部施設の入室制限、子どもの利用制限、訪問予約制や入館者数の制限などが続いた。特に臨時休館等の決定にあたっては、その時期をみると、各国の政府・自治体の都市封鎖や外出自粛・休業要請等の方針が出された時期で、現時点では解除されていない。一方で、そうした措置を行っていないスウェーデンや、ヨーロッパでいち早く学校を再開したデンマークでも都市部の図書館では休館を継続している。

3. サービス縮小下の図書館のサービス内容

世界中の図書館が、コレクションやサービスをリモートアクセスで使えるように尽力している。利用者に来館してもらえないぶん、図書館側から地域・コミュニティの人びとのもとへ届けなければならず、より能動的にサービスを行おうとしているといつてよい。

全体的な傾向として、既存のサービスの提供条件を緩和したり、拡大したりする動きがある。代表的なものが、貸出期間の延長や貸出冊数の増加、延滞料金の免除、電子資料のコンテンツの増加、オンラインデータベースや電子資料の利用拡大、有料サービスの無料化、新規利用者登録を電話やオンラインでも可能とするなどの対応がある。

サービス提供の方法については、インターネットを通じたサービスが主流となっているが、オフラインサービス（遠隔で、または来館者向けに人やモノを届ける物理的なサービス）もさまざまな方法で継続されている。「資料」、「施設」、「図書館員」の三つの観点から概要を述べ、それぞれの図書館の取組を表にまとめた。

(1) 資料

世界的に電子資料（電子図書、電子雑誌、データベース）への関心が大幅に高まっている。欧米では既に電子資料への予算配分を優先する動きがある。

国内でも電子図書サービスを実施している図書館の利用は高まっており、出版社の協力により、休校中の子どもたちへの支援として期間限定で一部コンテンツが公開されたほか、新規利用者のために電子サービスの利用ID等の発行を電話で受け付けるなど、利用促進の取組が各館でみられた。しかしながら、日本の公共図書館では今なお紙の資料が中心である。さらに電子図書などの領域だけではなく、調査研究に資するオンラインデータベースや「デジタルアーカイブ」などにおいても普及しているとは言い難く、コロナ休館中の今、欧米などの公共図書館と提供情報に大きな格差が生じていることが浮き彫りになった。

紙の資料の貸出については、表に示したとおり、さまざまな方法で継続されており、特に「郵送等による配達貸出」が増えている。基本的には有料のサービスであるが、配送業者を介さない配達方法、対象や期間を限定する等の工夫で無料としている取組もみられた。

(2) 施設（場・設備）

各国で、プログラム（イベント）の場や地域・コミュニティの人びとの交流の場を、オンラインで提供している。特に米国の図書館ではもともとオンラインでのプログラムや情報発信が活発であり、プログラムのオンラインへの移行は比較的スムーズな印象である。また、休館中は実際に書架をみる（ブラウジング）ができないため、少なからず本との出会いの機会が制限されることになり、それを補う図書館情報システムも重要になってくる。

このようにオンラインサービスが強化されているなかで、アメリカ図書館協会 (ALA) は、COVID-19 の感染拡大がデジタルデバイドを浮き彫りにしたとして、休館中の図書館であっても Wi-Fi の開放を勧告した。また、デジタルツールに慣れていない利用者への支援は課題となっている。

休館中の施設や設備は、地域・コミュニティのために提供されている。しかし、多くの自治体で図書館が休業要請の対象となった影響で休館する図書館は増加しており、図書館の施設を活用した取組は難しくなっている。そのため、それぞれが過ごす場所、などでの過ごし方への支援が中心となっている。

(3) 図書館員

図書館員は休館中も、電話、メール、チャット、Skype などさまざまな方法で利用者からの相談を受け付けており、新しいサービスの開発など努力を続けている。また、在宅のまま、あるいは移動図書館など、施設を離れてサービスを行っている。利用者とは直接接することができないなかでも、顔の見える情報発信を行い、コミュニティのニーズを把握しようと努めている。コミュニティに求められるサービスを提供するため、その役割はさらに拡大していることがうかがえる。

表 サービス縮小下の図書館の取組例

項目	図書館の取組	
	オンラインサービス	オフラインサービス
資料	<ul style="list-style-type: none"> 電子資料(電子図書サービス, オーディオ図書等)の提供 デジタル化資料, 「デジタルアーカイブ」等の提供 オンラインデータベースや Web サービスの提供 新型コロナウイルス関連情報の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 郵送等による配達貸出 移動図書館の運行 学童施設等への団体貸出 予約受取やドライブスルー方式などでの貸出
施設(場・設備)	<ul style="list-style-type: none"> YouTube 等での動画配信によるおはなし会やストーリータイム オンライン会議システムやゲームを活用した人びとの交流の場の提供 オンラインでの宿題支援 オンラインでのプログラム, イベント 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルデバイドへの対応(Wi-Fi の提供など) ホームレスや失業者の人びとへの支援 子どもたちへの居場所の提供 ボードゲームや工作キット, パズルなどの提供
図書館員	<ul style="list-style-type: none"> メール・チャット・Skype 等での相談対応 Web サイトや SNS での情報発信 ソーシャルリスニングツールを活用したニーズの把握 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館内作業(電話対応や新しいサービスの開発など) リモートワーク(自宅等からの情報発信やサービス提供) 地域のための活動(孤立している人びとへの支援など)

4. おわりに

図書館の新しい取組には、新規のユーザを獲得する機会にもなるものもある。英国では一部の地域の図書館の新規登録利用者が 600%以上増加したとの報告がある。図書館の臨時休館やサービスの縮小によって利用者に直接的にサービスを提供することができない部分もあるが、むしろ活発でより積極的な展開になっている部分も多くある。

休館中の図書館が、そこを居場所としている多様な人びとのため、それぞれに合致したサービスを展開している状況は、人びとにとって図書館という「場」がどのように必要とされているのかを、改めて考える機会ともなっているであろう。

2020 年「全米図書館週間」(National Library Week) の、“Find the library at your place (あなたの場所で図書館を見つけよう)”というテーマが、これからの図書館の「場」を考えるキーワードのように思え、印象に残った。それは必ずしも物理的な場に限ったものではなく、オンラインでできる、オンラインならではの交流や体験の可能性もある。このテーマを念頭に置き、引き続き情報を収集していきたい。

最後にひとこと付け加えると、図書館員が COVID-19 に感染したという事例が国内でも複数出ている。自分自身を含め、人びとの安全を脅かすような事態を招かないよう十分な対応が必要である(American Libraries の“How to Sanitize Collections in a Pandemic”は参考になる)。また、公共図書館もこの感染症について人びとが正確に理解できるような情報支援を行い、私たちの間の共生が心地よいものになるようにと願うものである。

■今後の動向レポート 予告

本稿「新型コロナウイルス影響下の図書館」については、引き続き動向を調査し、とりまとめ発信していきたいと考えています。次号は、世界の図書館の再開に向けたさまざまな取組について、近日中に発行予定です。

当研究所では、日常的に図書館に関わる動向の把握に取り組んでおり、2020 年は発行頻度を増やし、順次公開していきます。

研究所 TOPICS

■第4回シンポジウム「図書館とランドスケープ」の記録を公開しました

2019年11月11日に開催しましたシンポジウムの記録を、Web サイトにて公開しました。

各パネリストの講演のテーマは、伊藤麻理氏(UAo 株式会社 代表取締役)による「図書館から広がる地域おこし 那須塩原市の未来を考える」と、森山光良氏(元岡山県立図書館)による「デジタルアーカイブにおける情報のランドスケープ」です。ぜひご覧ください。

http://www.miraitosyokan.jp/future_lib/symposium/4th/report/



■『調査・研究レポート2019』を発行しました

2020年3月30日に、『未来の図書館 研究所 調査・研究レポート2019』(Vol.3)を発行いたしました。

岡崎正信氏、内野安彦氏にご登壇いただいた第3回シンポジウムの記録と、第3回ワークショップの報告、研究レポートとして「デジタルアーカイブ」に関わるレポートを二つ掲載しております。目次は以下の通りです。

本レポートおよびバックナンバーの送付をご希望の方は、下記「発行人」までご連絡ください。

— 目次 —

■第3回シンポジウム「図書館とサステナビリティ」記録

■第3回ワークショップ「図書館員の未来準備」報告

■研究レポート

「日本語の歴史的典籍のアーカイブ構築と活用」／増井 ゆう子氏(国文学研究資料館)

「デジタル世界にいまなにが起きているのか」／宇陀 則彦氏(筑波大学教授)



編集後記

はじめに、新型コロナウイルスの影響を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

このような困難な時期こそ、図書館に関わる皆様とのパートナーシップが重要と考えております。私どもの事業を推進できるよう必要な対策をとり、必要なツールとリソースを万全に備え、発信し続けていくことで、皆様のお役に立てればと存じます。

さて、前号に引き続き、当研究所のキャラクター「MITO」の秘密についてご紹介します。MITO はご覧のとおり犬の形をしておりますが、実は犬型ロボットなのです。しっぽのひまわりの花はソーラーパネルになっていて、太陽光発電で動く「リチャージャブル」な、つまり「サステナビリティ」をもったロボットです。第3回シンポジウムでもとりあげました「サステナビリティ」は、私どもとしても重要なテーマであり、不確実な世の中においても歩みを止めず、MITO とともに活動を継続させていきたいと思っております。MITO には、まだまだ隠されたコンセプトがあるのですが、話せば長くなりますので、そちらの説明は、また次回に続きます。

改めまして、第2号もお付き合いただきありがとうございます。本号では、新企画のウェビナーと、動向レポート増刊号「新型コロナウイルス影響下の図書館」についてご紹介いたしました。引き続き、ご意見・ご感想などお待ちしております。皆様の安全と健康をお祈り申し上げます。(木村 瞳)



発行人

編集・発行:株式会社 未来の図書館 研究所

〒113-0033 東京都文京区本郷 5-23-12 鳩山ビル 7階

✉ info@miraitosyokan.jp ☎ 03-6673-7287 FAX 03-6772-4395

URL: <http://www.miraitosyokan.jp>  <http://www.facebook.com/miraitosyokan/>



図書館づくりのご相談、原稿執筆、講師依頼等、その他お気軽にご連絡ください。

これまでの実績について、「当研究所員が携わった仕事(2020.3 現在)のご紹介」を Web サイトに掲載しています。